



むかい

学校教育目標

- ・かしこく ・やさしく
- ・たくましく ・なかよく

主体性・自立

校長

朝、登校する子どもたちを正門で迎え、あいさつを交わしています。「おはようございます」と笑顔で元気に声をかけてくれる子どもたち。朝からとても気持ちよくなります。また、毎朝、正門まで付き添いでお見送りして下さる保護者や地域の方が多く頭が下がる思いです。本当にありがとうございます。

さて、子どもたちの明るい顔と暗い顔の差はどこから生まれてくるのでしょうか。この差はどんなところにあると思われますか。それは、「何かをやらされているか、自らやっているか」の差だと思います。お子さんが目的意識をもって、「やってやるぞ」という気持ちで行動していれば、明るい顔で「行ってきます！」と出かけ、学校では友だちや先生と関わりながら、「自力解決する力」が身に付くと考えます。

時々保護者の方から「子どもがゲームに熱中しすぎて勉強しないのですが、どうすればいいのでしょうか」というお悩みを聞くことがあります。なぜ子どもたちはゲームに熱中してしまうのでしょうか。子どもに「ゲームをやりたいくない」と思わせる方法を考えるとよいと思います。「ゲームをやりたいくない」と思わせる方法、それは「教える」ことなのだと思います。

ゲームはある目標に向かって様々な選択があり、自ら試行錯誤して決めていくことが楽しいものだと考えます。それを他者が先回りしてやり方を「教え」てしまうと、子どもが選択するチャンスを奪ってしまい楽しさは半減してしまいます。このゲームがうまくいかなかったら自分で試行錯誤して解決しようとせず、「教え方が悪い」と人のせいにしてしまうことがあります。この「誰かのせいにする」ことこそが「自分で決められない」依存型の特徴になるのだと思います。そして、やらされ感になり楽しくなくなる。

実は子どもたちはゲームの中で「自分で決める」自律型の行動をしていると思います。ある目標に向かって、時には仲間と協力し、手段を選択し、実行する。問題が起きたらそれを解決するために最適な手段を考え続けています。うまくいなくても、自分で決めたことだから「次は頑張るぞ」と前向きに考えます。それは私の時代でも同様で、遊びの中で、自分たちでルールを決め、うまくいかなかったら変更し、みんなの合意で楽しく遊んでいたものです。

今後、子どもたちに求められる力こそが、正にこういうことだと思います。つまり、チャレンジしていく、話し合ったり、試したり、どうしたらうまくいくかということを自分で考え、解決していく力。この力をもつ人になるには、指示待ちでなく、主体的に行動できることが必要だと考えます。

私たち大人は効率よく「教える」ことで、児童の目標を達成することにつながることはあります。しかし、「教えすぎ」「与えすぎ」で児童の選択肢を奪ってしまうと、主体的に学ぶ力は身に付かないだけでなく、学びを楽しいと思わなくなってしまいます。

ぜひ、ご家庭でも真剣に取り組んでいる姿を見かけましたら、励ましの言葉をかけてください。そして、上手にできても、たとえ失敗してもがんばった後には、声に出して褒めてあげてください。必ず次への意欲につながります。よろしくお願いします。